

平成 29 年度第 3 回横須賀市スポーツ推進審議会 会議録

- 日 時 平成 29 年（2017 年）3 月 28 日（火）15:30～16:30
- 会 場 横須賀市勤労福祉会館（ヴェルクよこすか） 4 階第 1 研修室

- 出席者 横須賀市スポーツ推進審議会委員（敬称略 50 音順）
委員長：田中靖和 委員長職務代理者：鈴木満
磯部忠、加藤努、東海林義勝、鈴木志保子、醍醐一朗
滝川満弘、武雅兄、野地武司、安田政樹、山口昭生

欠席
伊藤隆義、工藤幸久

事務局（7 人）
学校教育部長：伊藤学
スポーツ課長：三橋政義 スポーツ課指導主事：鈴木史洋
スポーツ課係長：前田幸一郎、柴崎正、志村康浩
スポーツ課担当者：平澤健太（記録者）

傍聴者 なし

- 議事次第 開会
- 1 教育委員会あいさつ
 - 2 報告事項
 - (1) 平成 28 年度スポーツ関係事業進捗状況について
 - (2) 平成 29 年度スポーツ関係事業概要について
 - (3) 平成 28 年度横須賀市児童生徒・体力運動能力、運動習慣等調査報告書について
 - (4) 教育アンケート報告書について
 - 3 その他

- 資 料 【配付資料】
- 1 横須賀市スポーツ推進審議会委員名簿
 - 2 平成 28 年度スポーツ関係事業進捗状況
 - 3 平成 29 年度スポーツ関係事業予定
 - 4 平成 29 年度スポーツに関する事務の移管について
 - 5 平成 28 年度横須賀市児童生徒体力・運動能力、運動習慣等調査報告書

【当日配付資料】

- 1 平成 29 年度スポーツ関係事業
- 2 横須賀市教育アンケート報告書

開会

事務局（施設係長）が、平成 28 年度第 3 回横須賀市スポーツ推進審議会の開会を告げた。

1 教育委員会あいさつ

□事務局（学校教育部長）

皆様、こんにちは。学校教育部長の伊藤でございます。年度末のご多用の中をお集まりいただきまして、ありがとうございます。

本日の会議は、年間 3 回予定をしておりますスポーツ推進審議会の最終回ということで、事務局を代表いたしまして一言ごあいさつを申し上げます。本日、事務局からの報告は、本年度の事業の総括と次年度の課の概要並びに予算・事業計画などを予定しております。

おかげさまで、本年度もたくさんの事業を通して、市民の皆さまにスポーツやレクリエーションに親しんでいただくことができたのではないかと考えております。多くの行事でご指導ご協力いただきまして、ありがとうございました。

報告事項の中で説明があると思いますが、来年度、スポーツに関する事務の移管が行われます。社会体育係と施設係は政策推進部スポーツ振興課として、学校体育係は教育委員会事務局学校教育部保健体育課として事務を行います。委員の皆様にとってご迷惑をお掛けすることがないように、各課で連携を図り、切れ目のないスポーツ振興を図っていきたく思います。

「平成 29 年度スポーツ関係事業概要」については、先日閉会しました、市議会第 1 回定例会においてご承認をいただいた内容でございます。皆様には、内容をご確認いただくとともに、実際の執行にあたってのご意見を頂戴できるとありがたいと考えております。

委員の皆様におかれましては、2 年間の任期のちょうど“折り返し地点”ということになります。これまでのご協力に改めて感謝を申し上げますとともに、これからも変わらぬご指導・ご協力賜りますよう、お願い申し上げます。本日も、どうぞよろしくお願いいたします。

□事務局（施設係長）

それでは、これより議事にうつらせていただきます。スポーツ推進審議会条例第 3 条によりまして、議長は、田中委員長をお願いいたします。

□委員長

それでは、議事に入る前に、本日の定足数について、事務局からお願いします。

□事務局（施設係長）

定足数についてご報告いたします。スポーツ推進審議会条例第4条に「審議会は、委員の半数以上の出席がなければ会議を開くことができない」とあります。本日は14名の委員のうち12名のご出席をいただいておりますので、会議は成立いたします。

□委員長

次に、傍聴者の確認ですが、本日の会議の傍聴を希望される方はいらっしゃるのでしょうか。

□事務局（施設係長）

本日の傍聴者はいらっしゃいません。

2 報告事項

(1) 平成28年度スポーツ関係事業進捗状況について

□委員長

それでは、会議次第に基づいて、進めたいと思います。事務局から説明をお願いします。

□事務局（施設係長）

資料2をご覧ください。第2回審議会以降に行われたイベントは、10月22日に行われた中学校駅伝競走大会から、3月18日に行われた1万メートルプロムナードウォークです。選手等の参加者人数と、観客数は資料のとおりです。1年間、委員の皆様には多くの行事にご指導ご協力いただき、誠にありがとうございました。

続きまして、資料3をご覧ください。平成29年度スポーツ関係事業予定です。報告事項(2)の中でも説明いたしますが、スポーツに関する事務の移管により、スポーツ関係の各事業も二課に分かれて行うこととなります。記載のとおり、下線を引いていない事業はスポーツ振興課が事務を行い、下線が引いてある事業は保健体育課が事務を行います。移管はしますが、委員の皆様には、多くのイベントでご協力をお願いすることになると思いますので、今年度に引き続き、よろしく申し上げます。事業については表のとおりですが、7月に第51回神奈川県中学校総合体育大会が横須賀ブロックを主会場で行われることや、毎年3月に実施していた一万メートルウォークが11月3日に行われるなどの変更点がありますのでご承知ください。説明は以上となります。

□委員長

ありがとうございました。質疑応答につきましては、報告事項(2)の説明の後に行います。

(2) 平成 29 年度スポーツ関係事業概要について

□委員長

事務局から説明をお願いします。

□事務局(施設係長)

資料 4 をご覧ください。平成 29 年度から、スポーツに関する事務の移管が行われることを改めてご報告いたします。現在の社会体育係と施設係は、教育委員会から市長部局に移行し、政策推進部スポーツ振興課になります。事務室は市役所の 1 号館 4 階に移動します。学校体育係は、学校保健課と統合し、保健体育課となります。事務室は市役所 1 号館 6 階で変わりありません。それぞれの事務分掌は 1. 組織改正について、に記載のとおりです。

続きまして、2. スポーツ推進審議会について、です。審議会委員の任期は、スポーツ推進審議会条例により、2 年となっております。移管は行われますが、委員の皆様の任期は変わらず、平成 30 年 3 月 31 日までです。平成 29 年度の開催回数は 4 回を予定しております。例年より 1 回多い理由ですが、29 年度に策定する予定の、横須賀市教育振興基本計画の第 3 期実施計画等に係るご意見をいただきたいと考えております。前回の審議会でご意見いただきました、スポーツ課分裂後の連携についてですが、日頃から事業予定など、職員相互の連絡を密に保つとともに、審議会の場に双方の担当者が出席し、連携を保つことを考えております。従いまして、審議会への事務局の出席者は、市長部局からは文化・スポーツ担当部長、スポーツ振興課長、及び、係長、担当者、保健体育課長、保健体育課体育係長を予定しております。裏面をご覧ください

前回の審議会でもいただいた、移管に関するご意見は、平成 28 年 10 月 28 日実施の教育委員会定例会で報告いたしました。記載内容は、定例会資料の抜粋ですので、ご参照ください。続きまして、各係の予算概要についての説明です。

□事務局(社会体育係長)

それでは、お手元の当日配布資料 1 をご覧ください。平成 29 年度のスポーツ関係事業について、ご説明いたします。

1 ページをご覧ください。社会体育関係です。No. 1 給与費から、2 ページの No. 15 一般事務費まで、今年度とほぼ同様の事業を計画しております。

特には、2020 年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた取組として、2 点ご説明いたします。

1 点目は、No. 9 の国県体育大会等選手派遣事業を拡充し、新規に「全日本強化指定選手奨励金」を設けました。これは、従来の全国・国際大会等出場者奨励金とは別枠で、JOC・日本オリンピック委員会や JPC・日本パラリンピック委員会など、国の強化指定を受けた日本代表まであと一步の横須賀市在住、在勤、在学の選手に年額 5 万円を交付して支援するものです。

2 点目は、No. 11 の社会体育団体等補助金におきまして、横須賀育ちのオリンピック・パラリンピック選手を育成するために、横須賀市体育協会にお願いしている選手強化に

係る取組を統合・再編し「スポーツ選手育成強化事業」として拡充いたします。

なお、これらの拡充事業には、スポーツを愛する皆様からのご寄付であるスポーツ基金を財源として充当させていただきます。

以上、社会体育関係全体の予算といたしましては、2ページ最終行に記載のとおり、1億7,633万3千円で、スポーツ振興課事務移管に係る職員数の減による給与費及びオリンピック・パラリンピック出場者壮行会経費などが不要となったことにより、前年度比2,280万4千円の減となっております。以上で社会体育関係の説明を終わります。

□事務局（施設係長）

続きまして、施設系の予算を説明いたします。No. 1の給与費は第4期の指定管理者を選考するための選考委員報酬です。次第3の中で「指定管理者の選考について」との項目がありますが、この場でご説明いたします。現在の体育会館の指定管理者である、スポーツコミュニティよこすかとの契約は平成29年度で終了するため、第4期の指定管理者の公募決定を行います。選考委員会で応募者を選考したうえで10月ごろに決定する見込みです。選考委員会は3回の開催を予定しております。

No. 2はスポーツコミュニティよこすかに支払う指定管理料です。

No. 3の体育会館営繕工事費についてですが、このうちメインアリーナ競技場の改修工事は平成30年2月から同年12月まで利用を停止しての工事を予定しております。これに伴う器具の移管等につきましても予算化をしております。

No. 4の事務費のうち、修繕料は北体育会館ガス漏れ警報設備の修繕、メインアリーナの火災報知器の設備修繕などを予定しております。体育器具の購入費は新体操マット、ソフトマット、スポーツタイマー、プール監視台などの購入を予定しております。総額約9億9,300万円、前年比で約1億8,000万の増加となります。これはメインアリーナ改修工事及び北体育会館外壁改修工事といった大きな改修工事が重なるためです。以上で説明を終わります。

□事務局（学校体育係長）

それでは、平成29年度の保健体育課、学校体育関係事業概要についてご説明いたします。当日配付資料1の4ページをご覧ください。

1の学校体育指導業務は、小中高の学校教員と児童生徒を対象とした講習会や研修会の開催費用、児童生徒体力・運動能力、運動習慣など調査集計委託費用など、あわせて622万3千円を計上しています。

2の小学校体育科準教科書・中学校保健体育実技準教科書及び教師用指導書は、合計1,210万7千円を計上しています。

3 小学校児童各種行事及び記録大会は、小学校児童を対象とした相撲大会や陸上記録会等の開催経費、あわせて652万5千円を計上しています。

4 小学校水泳指導関係は、水泳プール未設置校の水泳授業を実施する経費や各小学校の水泳実技指導者を派遣する経費で、合計657万2千円を計上しています。

5 中学校武道実技指導者派遣は、平成23年度からの武道必修化に伴う実技指導者を派遣する経費で12万1千円を計上しています。

6 横須賀市中学校総合体育大会は、横須賀市中学校総合体育大会、総合開会式及び

参加生徒の交通費等の経費で、合わせて 862 万 6 千円の計上となっています。

7 中学校各種競技大会は、中学校駅伝競走大会及び中学校各種新人スポーツ大会を開催するための経費で、合わせて 299 万 4 千円を計上しています。

8 全国・関東・県下中学校各種競技大会選手派遣は、本市を代表して出場した生徒に激励費などを支給するための経費で、1,115 万 9 千円を計上しています。

5 ページをご覧ください。9 中学校運動部活動指導者派遣は、顧問の競技経験や指導経験がない、もしくは短いこと等、各学校の実情に応じ、専門の技術者を派遣して、学校の部活動運営を支援するための経費で、509 万 6 千円を計上しています。また、今回指導者は 25 人から 30 人に拡充することとなりました。

10 県中学校体育連盟負担金は、神奈川県中学校体育連盟の運営負担金と 8 年に 1 度、横須賀ブロックで開催される神奈川県中学校総合体育大会の開催地負担金が新たに計上され、合わせて 338 万 6 千円を計上しています。

11 高等学校運動部活動強化育成は、市立横須賀総合高等学校の運動部活動の活性化を図るための事業で、6 クラブ分の指導者派遣費用（陸上・アーチェリー・ラグビー・硬式テニス・ソフトテニス・野球）、運動部活動検討委員会及び部会の設置費用、栄養指導支援業務の委託など、合わせて 800 万 2 千円を計上しています。

12 全日制高等学校各種競技大会は、横三地区高等学校総合体育大会補助金の費用で、13 万円を計上しています。

13・14 全国・関東高等学校各種競技大会選手派遣は、本市を代表して出場した高等学校生徒の激励費等の費用を計上しています。

15 ろう学校運営等は、運動部活動指導者謝礼に関する費用等で 23 万 9 千円を計上しています。

16 ろう学校各種競技大会選手派遣等は、全国・関東・県下ろう学校各種競技大会出場の激励費等で 42 万 6 千円を計上しています。

17・18・19 は小中高の学校プール運営で、学校プールの運営・維持管理費として、合計で 2,051 万 7 千円を計上しています。学校体育関連予算として 19 事業、計 9,562 万 7 千円の予算計上となります。前年度予算と比べ 554 万 5 千円の増となっています。理由としてはおもに、全国中学校体育大会の開催会場の変更（北信越地区→九州地区）により激励費予算が増え、また神奈川県中学校総合体育大会の開催地負担金が新たに計上されたためです。以上で学校体育関係の予算説明を終わらせていただきます。

委員長

ただいまの説明につきまして質問・ご意見がございましたらお願いいたします。

委員

社会体育係に記載の全日本強化選手指定選手奨励金ついてですが、2020 年の東京オリンピック・パラリンピックに向けて、対象選手はすでに確認されているのでしょうか。

事務局（社会体育係長）

全日本強化指定選手ですが、数名いらっしゃるかと聞いております。氏名までは公表されていませんので、新年度に入ってから、体育協会をはじめとするスポーツ関係団体の

皆様に、会議の場などを通して情報提供をお願いしていきたいと考えております。

□委員

この場でのご報告ですが、アーチェリーのナショナルチームに、横須賀市在住の選手が1名おります。

もう1件質問です。学校体育係についてですが、横須賀総合高等学校運動部活動の指導者派遣に関わる、6運動部の競技を教えてください。

□事務局（学校体育係長）

陸上、アーチェリー、ラグビー、硬式テニス、ソフトテニス、硬式野球の6競技です。

（3）平成28年度横須賀市児童生徒・体力・運動能力、運動習慣等調査報告について

□委員長

事務局から説明をお願いします。

□事務局（指導主事）

報告事項（3）「平成28年度横須賀市児童生徒体力・運動能力、運動習慣等調査報告書」について報告いたします。資料5をご覧ください。

平成26年度までは、本市児童生徒の体力や、運動習慣等の実態が把握できる資料は、小学校5年生と中学校2年生を対象として悉皆で行われる全国調査の結果と、市内小中学校それぞれ数校が抽出されて行われる神奈川県調査の結果のみでした。平成27年度から、本市独自調査として小学校3年生から中学校3年生までの悉皆調査を行うようになり、より詳細に実態を把握することができるようになりました。

今年度は実施2年目になり、前年度調査の結果との比較や、結果から見られる本市の傾向などについて、報告書としてまとめました。冊子は、第1章に調査結果の概要、第2章に基礎集計という構成ですが、ここでは、後半の集計資料をご覧くださいながら、説明させていただきます。なお、資料によっては、小学校1～2年生の結果の記載もありますが、この2学年については、従前の比較資料と同様、抽出校を対象とした神奈川県調査の結果を用いていますので、ご承知おきください。

11ページの資料1、体格に関する調査結果をご覧ください。ここでは、身長・体重の平均値とともに、肥満傾向児と痩身傾向児の出現率を示しました。この報告書は、別に設置する「横須賀市児童生徒健康・体力向上推進委員会」においても、有識者として委員をお勤めいただいている、神奈川県立保健福祉大学の鈴木志保子教授に事前にご覧いただきましたが、この資料1については、男女とも、小学校高学年から中学校1年生にかけて、痩身傾向児出現率の増加が大きいという点について、成長期の子どもたちが本来必要とするエネルギーを、食事からとることができているのかどうか、というご指摘をいただきました。この点について、現在詳細な分析はしていませんが、今後も数値を注視していきたいと考えています。

12ページから13ページの資料2、実技に関する調査結果をご覧ください。ここでは、全国・神奈川県・本市の前年度平均値との比較を示しました。

得点合計では、依然、全国平均値に届かない学年が多く、昨年度の結果を有意に上回った学年も少ない状況ですが、測定項目別に見ると、上昇傾向が見られるものがあります。小学校では「上体起こし」と「長座体前屈」において、中学校では「上体起こし」において、全国の平均値と同水準か、上回っている学年が多くありました。また、「反復横とび」「ボール投げ」においては、これまで、全国の平均値を大きく下回っていることが課題でしたが、昨年度と比較すると、多くの学年で上昇が見られました。同様に、「20m シャトルラン」「持久走」「50m走」においても、多くの学年で上昇が見られました。

全体的には、児童生徒の体力低下には歯止めがかかりつつあり、女子においては上昇の兆しが見られるという、全国の傾向と同様です。先ほど申し上げたとおり、全児童生徒対象の調査は実施2年目なので、さらに今後の経年変化に注目していきたいと思いません。

14 ページの資料3、新体力テスト総合判定結果をご覧ください。これは、新体力テストの合計得点に基づき、A～Eまでの5段階で判定される、総合評価の各割合を示したものです。AからCの判定に属する人数の割合は、全国の平均値を下回っており、DやEと判定される低得点群の児童生徒の割合が大きいですということがわかります。

15 ページの資料4、新体力テスト総合判定不能者の割合をご覧ください。様々な事情で、8つの測定項目のうちいずれかが未実施のまま調査票が提出された児童生徒の割合は、小学校では平均約4%、中学校では同じく約10%に上りました。

16 ページから 19 ページの資料5、実技調査種目別度数分布表をご覧ください。測定項目ごと、それぞれの学年において、分布数が多い上位3範囲を網掛けで示しています。

20 ページから 26 ページの資料6、実技調査学年全体表をご覧ください。学年ごとに、全国や県の平均値との比較の詳細を、表やグラフで示してあります。各ページ、上段が男子、下段が女子の結果です。

表には、各測定項目の平均値、標準偏差、対全国偏差値を示しました。また、レーダーチャートは、神奈川県と本市の対全国偏差値を示しています。

27 ページから 39 ページの資料7、質問紙調査集計表をご覧ください。ここでは、運動習慣、生活習慣、意識などについての質問紙調査の集計結果を示しました。27 ページから 33 ページまでが小学生、34 ページから 39 ページまでが中学生の回答結果です。

設問数は小学校・中学校ともに 26 問です。各表の左上に、質問番号とその内容を記してあります。

運動習慣に関しては、問1「運動部や地域スポーツクラブへの所属状況」、問2「体育の授業以外での、運動やスポーツの実施状況」、問3「体育の授業以外での、1日の運動やスポーツの実施時間」で調査しています。小学生は 27 ページから 28 ページ、中学生は 34 ページにその結果を示してあります。

本市においても、全国的に課題とされている「運動する子としない子」の二極化傾向が見られます。さらに学年が上がるごとにその傾向が顕著になり、特に中学校3年生の女子では、「運動しない(月1回に満たない)」と回答した生徒の割合が16%に上っています。

生活習慣に関しては、問4「朝食の摂食状況」、問5「1日の睡眠時間」、問6「1日のテレビ等の視聴時間」という設問で調査しています。小学生は 28 ページから 29 ペー

ジ、中学生は 34 ページから 35 ページにその結果を示してあります。これらの結果は、全国調査における都市部に共通の傾向と同様です。

鈴木教授からは、特に、本市の小学校高学年から中学校 3 年生までの「8 時間以上の睡眠をとっている」という回答が、全国の平均値を大きく上回っている点について、「睡眠時間が長いことを一概に良い傾向として捉えてよいのか、例えば、朝食もとらずに登校前ギリギリまで寝ている、土日はさらに朝寝坊をしている子どもが多いということも考えられるのではないか」というご指摘をいただきました。

運動やスポーツ、体育・保健体育の授業に対する意識に関しては、問 7「運動やスポーツをすることは好きですが」、問 9「運動やスポーツをすることは大切だと思いますか」、問 21「体育の授業は楽しいですか」、問 23「体育の授業で、運動のコツやポイントをつかめていますか」という設問で調査しています。小学生は 30 ページと 32 ページ、中学生は 36 ページと 38 ページにその結果を示してあります。学年や男女でやや差があるものの、全体的に肯定的な回答が多く割合を占めています。

ただし、全国調査でも同様な傾向が報告されていますが、問 9 の「運動やスポーツをすることは大切だと思う」という回答の割合と、問 7 の「運動やスポーツをすることが好き」という回答の割合の間に、やや開きが見られます。また、問 21 の「体育の授業が楽しい」という回答の割合と、問 23 の「体育の授業で運動のコツやポイントがつかめている」という回答の割合の間にも、やや開きが見られます。

全国調査では、授業中、運動のコツやポイントをつかめたきっかけは、「友達に教えてもらったこと」が最も多く挙げられたと報告されています。また、授業の最後に振り返りの時間が設定されているかどうか、体育の授業に対する意識と関連していることが報告されていますので、これらに対する各小中学校の取組状況が反映されているのではないかと考えられます。

40 ページ以降には、資料 8 として実技調査と質問紙調査のクロス集計を示しました。質問紙調査の各設問に対する回答において、肯定的な回答グループと、そうでないグループに分け、それぞれの実技調査の結果をグラフ化して比較したものを、各学年、男女別にまとめてあります。

40 ページ、小学校 3 年生男子の結果を例に説明いたします。ページ上の 4 つのグラフは、運動の実施状況や朝食の摂食状況と、実技調査結果の関連を示しています。2 本の折れ線グラフは、それぞれ肯定群、否定群の平均値であり、これを見ると、規則正しい生活習慣や望ましい運動習慣が、実技調査の結果に関係していることがわかります。同様に、40 ページ左下のグラフ（問 7「運動やスポーツをすることは好きですか」）、また、41 ページ左上のグラフ（問 9「運動やスポーツをすることは大切だと思いますか」）を見ていただくと、運動やスポーツに対する意識が、実技調査の結果に関係していることがわかります。同様に、42 ページに示した、問 21「体育の授業は楽しいですか」、問 23「体育の授業で運動のコツやポイントをつかめていますか」という設問においても、肯定的な解答群で得点が高いことがわかります。

以降、各学年、男女別にそれぞれ 4 ページにわたって同様の示し方をしています。設問によっては、学年が上がるほど、今ご説明したような傾向が顕著に表れていることもご覧いただけると幸いです。以上、報告書の内容について説明いたしました。

次に、課題に対する今後の取組の方向性について、補足説明させていただきます。 1

点目は、調査の実施の仕方についてです。

新体力テストを実施する際、事前の説明や確認、必要な指導を丁寧に行うこと、子どもたちが明確な目標を持って、全力で計測に挑める環境をつくることなどが、調査結果に大きく影響することは、これまでの研究委託校の実践において明確に示されました。これを踏まえ、子どもたちが本来持っている力を出し切らせるための工夫や、正しい計測の仕方について、全ての学校で、さらに徹底して取り組んでいただきたいと思います。

また、調査自体は、4月から7月の間に各校で実施していただいておりますが、新体力テストをいつ、どのような方法で実施するのか、未実施の児童生徒をどのように扱うのか、などのことを含め、計画的に実施されているかどうかを各校で検証していただこうと考えています。

2点目は、運動する子としない子の、いわゆる二極化傾向に対する取組です。体育の授業以外で、体を動かす機会が少ない児童生徒がこれだけ増えている状況を踏まえ、まずは、授業内で一定の運動量を確保できるような学習指導を計画するよう、体力向上を視点とした「体育科・保健体育科の授業改善」について、各校へ指導してまいります。

平成27・28年度、体力づくり実践研究を委託した野比東小学校の取組は、鈴木教授にも関わっていただき、授業中の子どもたちの運動量を計測し、その実態から授業改善を進めるというものでした。計測の結果からは、同じ授業内でも児童によって運動量に差があることがわかりました。また、授業の導入時に行う準備運動を工夫することで、全ての子どもに一定の運動量を確保できる可能性があることも報告されました。かなり意識的に取り組まなければ改善されない課題ですが、継続的に指導・助言してまいります。

また、調査結果からは、運動部や地域スポーツクラブへの所属状況が、授業時間以外の総運動時間と密接に関連し、さらに実技調査の結果にも表れています。特に中学校においては、その傾向が顕著であり、女子の部活ばなれが二極化に影響していることが考えられるので、運動部活動への継続的な支援も大切な取組であると考えます。

3点目は、生活習慣の改善についてです。食生活については、来年度から全ての小学校において「給食時間マニュアル」に則った指導をしていただくことになっていますが、食育の推進とともに各学校での指導をお願いしたいと考えています。

また、横須賀市児童生徒健康・体力向上推進委員会生活習慣改善部会では、睡眠のとり方や、携帯電話やスマホの使い方など具体的な内容について、学校や家庭へ向けた啓発資料を作成しています。生活習慣の改善については、家庭の役割が重要であることを踏まえ、各家庭向けにリーフレットを配布するなど、直接啓発する計画も視野に入れて取り組みます。

また、特に中学生においては、運動部に所属していることが、毎日決まった時間に起きて、朝食を摂ることなど、望ましい生活習慣の確立に関連していることも考えられるので、この点からも運動部活動に対する継続的な支援も取組の一つとして考えています。以上、補足説明をさせていただきました。次年度は体力づくり実践研究委託校の実践例を掲載するなど、今後も本報告書の内容をより充実させていきたいと考えています。以上で、報告を終わります。

□委員長

ただいまの説明につきまして質問・ご意見がございましたらお願いいたします。

□委員

1月に行われた、体力づくり実践研究発表会で、委託を受けた小、中学校の発表がありました。すでに来年度以降の取組が始まっていると思うので、今後も継続的なデータの追跡調査をしていただきたく思います。

□委員長

このような調査を、活かすか否かは学校次第だと思います。資料をとおして、各学校で、体力づくりに関する具体的な目標を定め、事務局内のみならず、学校現場で活用できる水準まで上げていかないと、体力の数値の向上は難しいように感じます。

□委員

全国レベルより、横須賀市の運動能力の数値が下回っている原因の分析は行われていますか。また、測定項目別にみると、上昇傾向の種目もあるという説明がありましたが、何か取組があった上での結果なのでしょうか。

□事務局（指導主事）

横須賀市の児童生徒の結果が全国に比べて低い傾向にあるということですが、先ほどの説明で申し上げたとおり、今まで比較できる資料は、ごく一部の児童生徒の調査結果を元にして作成されたものであり、全生徒対象の結果からより詳細に分析し始めたのが昨年度からであるため、今後も結果を追いかけて分析をしていきます。

また、研究委託校の取組に鈴木教授に関わっていただいた中で、「調査を行うときに、子どもたちが持つ本来の力を発揮できているのか」という点についてご指摘いただきました。あらかじめ、丁寧に子どもたちへ指導をしたうえで、計測をしたところ、明らかに結果が上向いていくことがわかってきました。各学校に徹底していき、子どもたちが全力を発揮できる環境の中での結果が全国と比較してどうなるのかが、この調査の出発点であると感じます。

上昇傾向が見られてきたことに対して、なにか取組を行ってきたかについての回答ですが、小学校、中学校それぞれ1校ずつ、2年継続の研究委託の事業を行っており、その結果が市内の学校に波及されるよう、年に1回、発表会を実施しています。以前からの課題であった、ボール投げ、反復横跳びについては、指導の方法や、日頃の体力の高め方など徐々に浸透している傾向があり、そのような点が結果として表われてきたのではないかと感じます。児童生徒健康・体力向上推進委員会の各担当部会の中でも、各学校で取り組める具体的な内容を資料化して情報提供をしてもらっていますので、そのような点からも徐々に効果が表れているのではないかと感じます。

□事務局（スポーツ課長）

補足ですが、体力の測定をする際、小学校では測定に慣れていない先生もいる中で、武会長をはじめとする、スポーツ推進委員の皆様にも、今年度は22校に対してご協力いた

できました。正しい測定方法を身に着けた方々に補助をしてもらうことで、結果も変わってきているのではないかと感じます。

□委員長職務代理者

資料の中で、女子の体力は年齢を重ねるにつれ二極化の傾向が示されてありますが、中学に上がると、興味関心が多様化されてしまいます。

スポーツのみならず、違う分野を積極的に取り組んでいる子どももたくさんいると思うので、この調査を様々な視点で捉えて、指導していただければと考えます。

(4) 教育アンケート集計結果について

□委員長

事務局から説明をお願いします。

□事務局(学校体育係長)

「スポーツに関する市民アンケート」の実施結果についてご報告させていただきます。

横須賀市教育振興基本計画の平成30年度から平成33年度の次期実施計画策定向け、平成28年10月中旬から12月上旬にかけて、アンケートにご協力いただきました。基本計画につきましては、社会教育編、学校教育編、スポーツ編の3編からなっており、各編ごとにそれぞれアンケート調査を実施いたしました。

まずはじめに調査対象者や回収数についてですが、本日お配りしました、「横須賀市教育アンケート(スポーツ編)」の2ページをご覧ください。地域ごとに学校を選定し、小学生、471名、中学生、418名、高校生、445名に対し学校を通してアンケート用紙を配布し、市民(成人)については、住民基本台帳から無作為に抽出した1,987人に対してアンケート用紙を配布しました。回収率等については、記載のとおりです。

続きまして、アンケートの内容についてですが、委員の皆様からいただいたご意見をもとに、一部変更しました。本日の会議時間の都合もあり、各質問の集計した数値に関しては口頭でご説明いたしません、アンケートについて少しご説明させていただきます。

まず、55ページと56ページに記載の、市民あてのアンケート教育振興計画に関する質問、問16、問17につきましては、スポーツ編と合わせて、学校教育編と社会教育編とを合わせた回答数で数値を算出しております。57ページ以降の自由意見欄に関しては、より振興計画にご回答が反映できるよう、第2期実施計画で掲げられている3つの目標、11の施策を提示し、この目標、施策に対し、ご意見をいただきました。主なご意見を抜粋すると、「目標1 子どもの生活習慣を改善し、体力の向上を図ります。」については、部活動について、生活習慣の改善、子どもがスポーツに興味を持つきっかけがあれば、などのご意見がありました。

「目標2 だれもが気軽にスポーツレクリエーションを楽しむことができる機会を充実させます。」については、教室や体育施設の充実や改善をしてもらいたいのご意見を多くいただきました。

「目標3 競技者の活動を支援するとともにスポーツ愛好者の裾野を拡大します」に

については、国際大会、全国大会などに向けてのハード面、ソフト面の改善やプロスポーツ選手との交流を望む声、各種スポーツ団体をどこで知ればよいかなどの疑問の声がありました。以上で、報告事項「スポーツに関する市民アンケートの実施結果について」のご報告を終わります。

□委員長

ありがとうございました。ただいまの説明につきまして質問・ご意見がありましたらお願いいたします。

⇒なし

□委員長

次にその他ですが、事務局からお願いします。

□事務局（スポーツ課長）

（スポーツ課人事異動について説明）

□委員長

次第はこれで終了しますが、全体を通してご意見はありますでしょうか。

□委員

障害者スポーツなども含め、国レベルではスポーツ庁が一元化を進めていますが、横須賀市はどのように取組を行うのでしょうか。

□事務局（スポーツ課長）

現在、福祉的なことは福祉部が行い、健康的なことは健康部が行うなど、それぞれの部局で事務を行っております。今後ですが、スポーツというキーワードの中で、すべてを一元化することは、あまりにも膨大です。しかしながら、移管することにより、一層市長部局と連携を図り、情報を一つにまとめることは必要事項であると思います。この点につきましては、スポーツ振興課として検討するべき事項であります。

□委員長

他にご発言はございますか。

⇒なし

それでは、平成28年度第3回スポーツ推進審議会を終了いたします。ありがとうございました。